

1 本校の今後の授業づくりについて

(1) 個人思考の時間の十分な確保

めあて（学習課題）に向き合わせる（わからせる）こと

【工夫点】

- ① 学習カードの構成、パターン化
- ② 早く考えをもった児童への支援（□ペア交流、□さらなる深化・進化）
- ③ 考えをもてない児童への支援（ヒントカード、直接支援）
- ④ 単元計画（拡大掲示版・学習カード）で本時の見える化
- ⑤ 前時までの振り返りを導入で入れる。（学びをつなげる）

【注意点】

- ❶ ペア対話のルールが徹底していないと対話の量や質が高まらない。
- ❷ 学習カードも効果的だが、発達段階に応じたノート指導も大切である。
- ❸ 児童が考えている時に支援をし過ぎない。（実態に応じた個への支援）

国語（物語文）で15～20分程度個人思考の時間を設定すると、年度初めは書くことに時間を要するが、繰り返すことで、やり方の理解や書くことの習慣化につながり、個人思考の時間が短縮して、対話の時間の確保ができる。（書き込む力・速さ）

個人思考の時間の目安は、一番最後の児童が書き終わって、その児童が誰かと一回ペア対話をした瞬間でストップとする。それまでは、早く書き終わった児童はペア対話を複数人とやり続けて、感想・質問・意見などを付けて対話ができる。

(2) 対話の仕方を示す（ルール化・パターン化）

まずは、話型にはめたルールの徹底が大前提。

繰り返すことで、オリジナルワードが出てきます。教師はそのワードを拾い上げて共有化する手立ては必要になる。

【工夫点】

- ① 発表のルールをラミネートし、いつも見えるようにする。
- ② 模範となる児童を紹介する。
- ③ 対話が止まった時「次に何を話せばいいか考えよう（つなぎ言葉）」と返す

【注意点】

- ❶ 教師が、明確なゴールの姿をイメージできていないと指導・支援はできない。
- ❷ 対話ではなく会話になっていないか見取り、適宜アドバイスする。
- ❸ 自分のノート（タブレット）を見ながら……相手意識の欠如には要注意

ある程度、対話のスキルが高まったら、児童に任せるのも児童の力を高めるために必要である。参観させていただいたいくつかの学級でも実践されていたが、相互指名等は是非やってほしい学習訓練である。ただ「他にありませんか」はNG。「いいと思います」≧「質問があります」「反対の意見があります。」などでつなぐ。

全員が見える隊形づくりなど場づくりも重要な要素になる。（場づくりは重要）。

(3) 発表する意識を高める

個人思考ですべての児童が考えをもった場合、すべての児童が発表できるはずである。なぜなら全員が自分の考えをもっているから。

全員挙手がベストだと思うが、他校の実践を参考にすると、児童自身の自信度で挙手の仕方が変わっている授業も見られた。(パーやグー等)

手を挙げて発表するのが恥ずかしいと思う児童が必ずいるはずだが、学習訓練を根気強く行えば全員挙手は可能である。逆に、手を挙げない方が目立って恥ずかしいと感じるように変容させたい。 ※教室でできないことは体育館ではできない。

【工夫点】

- ① 挙手したことを褒めることから始める。
 - ② 「間違いは学級の宝」「間違えから学習が深まる」ことを伝え続ける。
 - ③ 机間巡視(見取り)で、いい考えには「赤丸」を付けるなど、児童の発表意欲にスイッチが入るような支援も大切である。
 - ④ 時間があるときに「学級のみんなが発表するためには」(全員発表)をテーマにウェビング法をやってみるのもあり。
- ※ 自分たちで考えたルールや学び方は、必ず定着(涵養)する。

【注意点】

- ❶ 発達段階や学級の実態に応じることが大切である。全体でできない児童はグループやペアでの学びを繰り返すことから始めてみたらどうだろう。

(4) 対話を継続させる

「会話ではなく対話」だけでも指導する私たちは多くの工夫を必要とする。では、その対話を永遠(放っておいたら)と続ける学習はどうやったらできるのか。結論は「できない」です。学習訓練あつての対話の継続であることは否めない。

6年生の姿はこのようなゴールをイメージしたい。↓

(例) 挙手に方法：手の指5本全部で意思表示します。

先生「自分の考えを発表してください・」

全員「はい」

先生「**■**さんどうぞ」(全員**■**さんの方にへそを向ける)

■「発表します」 □「はい」

■「…について、わたしは…と思います。(…は…です)」

□「いいと思います」(ちがいます。)

グー 「新しい意見があります」…意見を切り出す時

チョキ 「付け加えます」…同じ答えでも方法や考えが違う時

パー 「質問があります」…もう少し詳しく聞きたい時

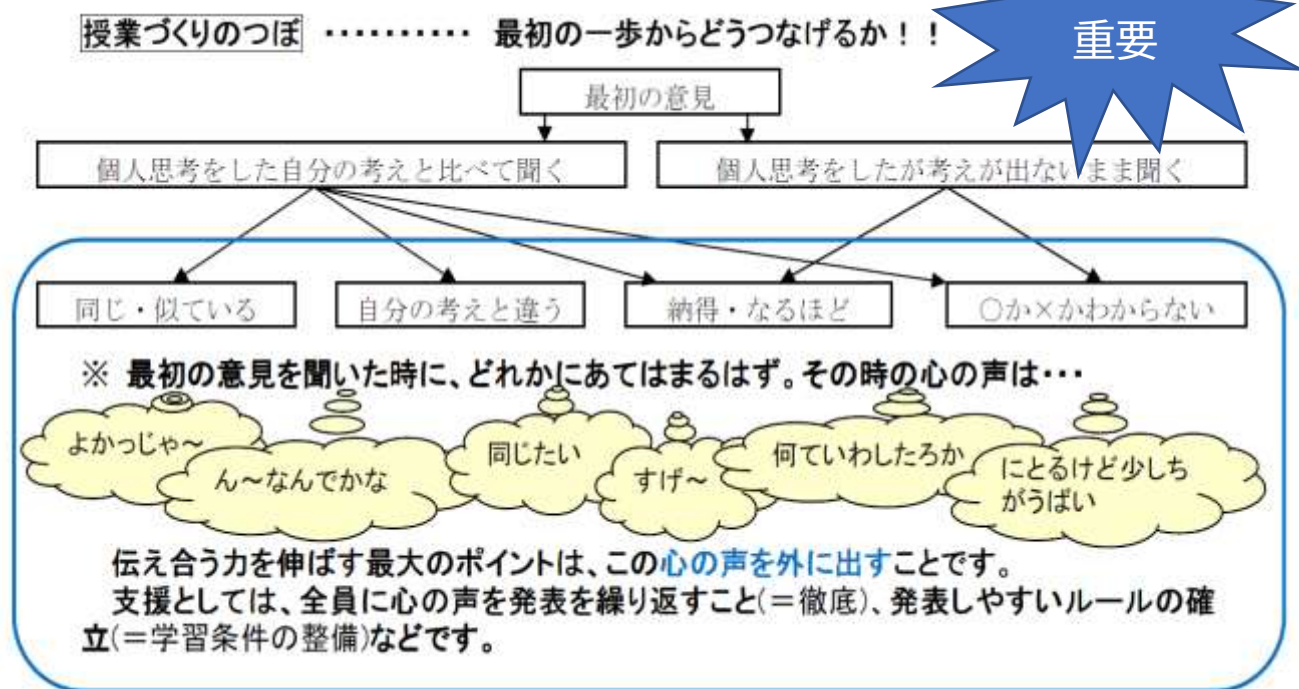
三本 サンキューの意見「ありがとう」「助かりました」

四本 「紹介します」

【工夫点】

- ① 一度発表したら終わりではなく、「質問」や「付け加え」、「感想」等で参加することを知らせる。(学び方を共有) ※全員挙手が続く状態
- ② 友達の意見をしっかり (ほんと心の底から・真剣に) 聞く (聴く)
そして、そのとき感じた言葉をアウトプットする。

※ イメージ



(5) その他 徒然

児童が主体になっている授業は、児童が次に何をしたいかを理解している授業だと思います。授業のパターン化、一単位時間の学び方の「見える化」など工夫をされている学級が多かったように思います。

複式学級の「渡り」のように、放っておいても自立学習ができる力も大切になりますね。

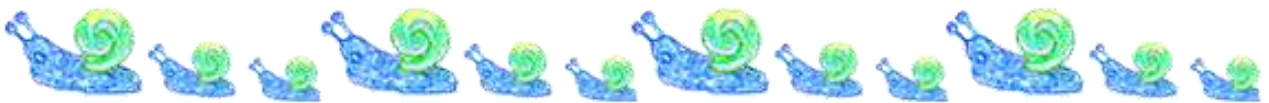
児童の意欲を高めるためには、… たとえばめあて書き終わった児童が「書きました。」と言った時に、その都度教師が「はい」と返してあげるなど『認める』(評価する)効果的です。簡単ですから意識してやってみてください。授業もしれっと活気づいたような気になります。

さて、先生方の授業で広めたいもの

- ☐ 前時のよかった対話(動画)や学習のあしあとを紹介すること。
- ☐ めあてやまとめをこどもから引き出すこと。
- ☐ 課題提示を「ブラックボックス的」な見せ方で仕掛ける。
- ☐ 授業中に「いい姿」「いい声」をその都度褒める。「いいね〜〜〜」
→ 正しくない姿、声はその都度指摘する(個人名は触れない)

- 簡潔で明確な指示（指示）を 1回だけ 行う。
- 学習のパターン化（見通し・学び方の定着）
個人思考
 - 対話①（少人数）
 - 個人再思考
 - 対話②（全体）
 - まとめ
 - アウトプット（わかったことや感想）
- 「なんでそう思いますか」という教師からの切り返し
- 「読む力」を高めるマストツール
「読む力」を高めるには「聞く力」を高める。
＝「聞く力」を高めやすい環境は「話す力」が高まった集団
- 45分間に何回もアウトプットしている。（45分発言しない児童なし）
- 児童の自己決定・自己選択の場の確保（学び方や学ぶ時間）

他にもたくさんありますが、小出しにしていきます。



今後は

どんな手立てをすれば

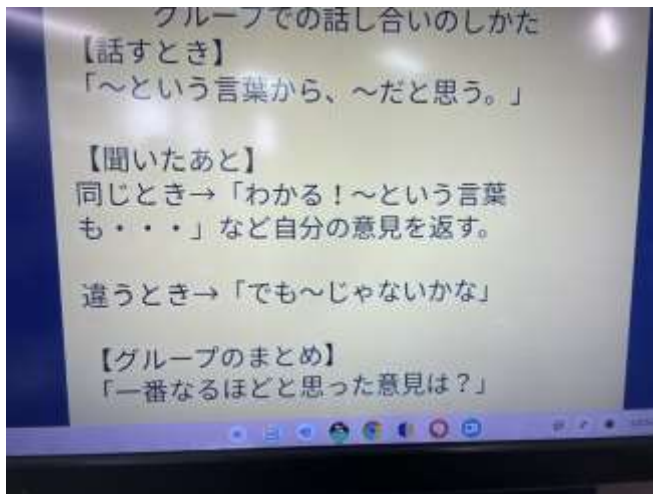
「全員が考えをもてる授業になるのか」

「全員が自分の考えを発表できる授業になるのか」

を考えていきましょう。



教科書に青線と赤線を引いたタブレット

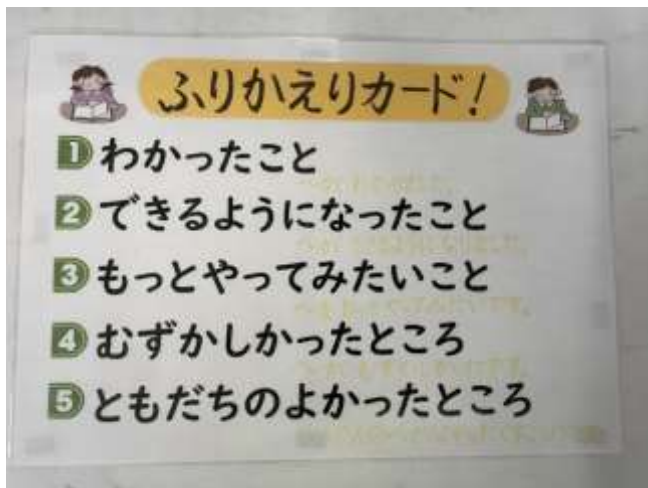


グループでの話し合い方

見えること聞こえること 電子黒板



関連図書



振り返りカード